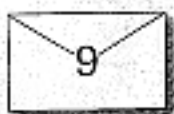


カナダがたの 手紙

会吉R.C.交換留学生の見た世界



浦田 大地

うになった要因なのではないかなあと考えています。

「こんにちは。どうどう」「カナダからの手紙」が最終号になってしまいました。今この留学生生活を振り返ってみると一年間もよく頑張ったなあと思います。本当にいろいろありましたが、特に病気も思わず元気に過ごせたのは本当に良かったです。

この一年間の中で一番変わったのは、一日を生きることがどれだけ素晴らしいことなのかを実感できるようになったことです。友達と話し笑ったり、ホストファミリーにピクニックを誘ってもらったりなど、普通の出来事の数々がおもしろいと思える方が増えてきました。

よく考えればそんなことで本でもできたことかもしれません。1年前までの僕にはそんなことすらできませんでした。僕にとって留学するということは楽しんでいる、自分を何かしらの面で変えられるものだと考えています。

もちろん嫌なことがあったり何かから逃げたいと考えてしまったりしたこともありました。でもそれを何とかして乗り越えることで留学生活についていいものに出会えることができたと思います。

正直本当に困ったのは国産の白米が食べられなかったことでした。皆さんの予想以上に

に白米ゼロ、漬物ゼロの食生活は本当に苦しかったです。少し話がずれてしまいましたが、もう少しで純日本人活が始まるのでうれしくてたはんがとれただけおいしいのか

まじません。

少い話が増えてしまいました。たが、その過程の中で母のこはんがとれただけおいしいのか



カナダ留学を終えて帰国する浦田君

を実感しました。ちょっと大胆ですが、親の存在にあらためて感謝できる部分があるとあります。

「よい帰国する喜びですが、その後たくさんの方々に留学のことについてお話ししたいと考えています。もし留学したい方がいたら、連絡してください。会吉ロータリークラブにお問い合わせくださいと幸いです。僕も情報提供ができますので。

一年の総仕上げということでしたが、書きたいことがあまりなくてうまく表現できませんでした。「承ったこと。今まで「カナダからの手紙」を読んでくださった方々、誠にありがとうございました。この記事が最終号になってしまいました。これから何かしらの形でカナダ留学についてお伝えできればと思います。それでは、皆様と再会までお会いしましょう。

留学生活振り返って 生きる素晴らしさ実感

(会吉市出身) (おわり)